

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03 - 5740 - 9505 e-mail : 最後のページ参照

日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

## 幅広い教育工学研究の推進について

会長 赤堀侃司（東京工業大学）

教育工学があつかう分野は、システム開発から教育実践まで幅広く、どのような分野なのだと聞かれることも多いですが、むしろそれが特徴だとも言えます。最近の研究会は、きわめて活発で、発表研究の申し込みが40件とか50件などと言われ、しかも他分野の研究者の発表が多いと聞いています。これは、他分野の研究者が、自分の研究分野が、教育工学研究に近いと感じているからではないでしょうか。それは、教育工学研究の境界線が、比較的ゆるく、どのような研究分野でも関わることができるという特徴があるからだと思います。

さらに、教育工学研究は、時代の流れや求められるニーズに敏感です。例えば、大学のFDが義務化されます。FDは、大学教員の教育方法に関する研修や活動ですが、教育工学らしい分野と言えます。京都大学で毎年大規模なフォーラムが開催されますが、大変な盛況であり、是非、本学会もこの分野に取り組めればと思っています。昨年6月のシンポジウムで、このテーマを取り上げ議論しましたが、多くの示唆がありましたので、是非継続していただきたいと思っています。

また、大学生の学力低下も、日々の授業で感じることもあり、基礎基本の定着と学習意欲の向上は、きわめて今日的な課題です。リメディアル教育も注目されているようで、そのためのICTの活用は効果的だという報告もあります。

さらに、携帯電話やDSなどのモバイルデバイスは、大きな流れを起こしつつあります。国際会議などでは、モバイルデバイスの研究、最近では、ゲームを正面から取り上げた研究も多くなりました。

これらの研究分野は、時代と共に、社会の変化と共に、移っていきますが、教育工学研究として十分価値ある研究と思っています。

### 本号目次

幅広い教育工学研究の推進について.....	1	論文投稿件数と採択率.....	11
研究会の開催案内/発表募集/報告.....	2	会費納入のお願い/研究報告集予約購読のお知らせ.....	12
産学協同セミナーのお知らせ(最終報).....	6	国際会議等報告.....	13
第24回通常総会とシンポジウムのお知らせ.....	7	理事会議事録.....	14
第24回全国大会のお知らせ(第一報).....	8	新入会員/学会日誌等.....	16

## 研究会の開催

研究会  
2008

## テーマ

## 日本語教育と教育学／一般

- 日 時：2008年 3月 1日（土）
- 会 場：名古屋大学（東山キャンパス） 留学生センター 2F  
名古屋市千種区不老町  
※留学生センターの場所は下記 URL（59 番）をご参照下さい。  
[http://www.nagoya-u.ac.jp/camp/map\\_higashiyama/](http://www.nagoya-u.ac.jp/camp/map_higashiyama/)
- 担 当：佐藤 弘毅（名古屋大学） [sato@ecis.nagoya-u.ac.jp](mailto:sato@ecis.nagoya-u.ac.jp)  
TEL: 052-789-4195

## プログラム

発表時間：発表 1 件につき 25 分（発表 20 分程度，質疑 5 分程度）

会場： A 会場（207 教室） B 会場（206 教室） C 会場（CALE フォーラム） D 会場（201 教室）

## 10:00-10:10 開会挨拶・諸連絡

## 10:10-11:50 午前の部

- A1) 受講者の紙へのノートテイキングを電子化黒板で共有するツールによる日本語教育支援可能性の検討  
佐藤弘毅（名古屋大学）
- A2) 映像を利用したフィードバックのための映像記述・再生ツールの開発  
古川雅子（総合研究大学院大学），  
柳沼良知・山田恒夫（メディア教育開発センター／総合研究大学院大学）
- A3) 海外の日本語非母語話者教師を対象とした教材制作および授業支援のための Web サイトの運用と再構築について  
高野千恵子・赤澤幸・磯村一弘・三原龍志（国際交流基金日本語国際センター）
- A4) ブレンディッド・ラーニングによる遠隔日本語教育の実施と検証—東京・台北間での初級日本語授業から—  
藤本かおる（首都大学東京）
- 
- B1) 第二言語コミュニケーション学習用ビデオカンファレンスシステムの評価  
山田政寛（東京工業大学），松本佳穂子（東海大学），石橋嘉一（総合研究大学院大学），  
赤堀侃司（東京工業大学）
- B2) 天白・可児キャンパス間の遠隔講義システムを活用した教職履修学生の支援の試み  
平山勉・曾山和彦・酒井博世・竹内英人・片山信吾・山崎初夫（名城大学），  
後藤明史（名古屋大学）
- B3) 遠隔学習における学習環境設計のための条件—照度と提示物の大きさに着目して—  
井戸康智・今井亜湖（岐阜大学）
- B4) 米国の図書館員養成における遠隔教育とその支援体制  
中島幸子（帝塚山大学），瀬戸口誠（梅花女子大学），小田光宏（青山学院大学）
- 
- C1) 公立小中学校教員を対象としたプロジェクタ等の活用頻度と理想の教室環境  
石塚丈晴（静岡大学／メディア教育開発センター），堀田龍也（メディア教育開発センター），  
野中陽一（和歌山大学／メディア教育開発センター），笹田森・山田智之（内田洋行）
- C2) 授業での ICT 活用のタイミングに関する調査  
高橋純・丸山紋佳（富山大学），堀田龍也（メディア教育開発センター），山西潤一（富山大学）
- C3) ヒント提示の認識の差異がもたらす脳活動の特徴—小学生を対象として—  
岡本尚子（大阪大学大学院），黒田恭史（佛教大学），前迫孝憲（大阪大学大学院）
- C4) アントレプレナーシップ教育における創造性の育成に関する研究 —小学校における実践分析を通して—  
伊勢千尋（鳴門教育大学大学院）・藤村裕一（鳴門教育大学）
-

- 
- D1) ICT 活用のエキスパート教員による学力向上を意図した授業設計・学習環境設計  
堀田龍也・中川一史 (メディア教育開発センター), 黒上晴夫 (関西大学)
- D2) 児童生徒の実態把握に生かす次元分け分析の訓練指導の試み  
野村泰朗・井口政子 (埼玉大学)
- D3) 教科における情報活用の実態把握と情報教育実践への課題の検討  
五月女保幸 (川口市立神根中学校), 野村泰朗 (埼玉大学)

### 13:00-14:40 午後の部第一部

- A5) CMS で管理する日本語学習サイト JPSOC.NET の教材  
伊津信之介・古川修士 (東海大学福岡短期大学), 中村郁夫 (シージーラボ),  
佐々木瑞枝 (武蔵野大学)
- A6) 算数文章題の解決過程に着目した外国人・日本人児童のためのマルチメディア教材の開発  
梅田恭子・山田果林・野崎浩成・江島徹郎 (愛知教育大学)
- A7) DVD 日本語教材『エリンが挑戦! にほんごできます。』の開発一言語と文化を学ぶ映像教材の設計  
久保田美子・築島史恵 (国際交流基金日本語国際センター)
- A8) 日本語聴解自習教材の開発と課題  
工藤節子 (東海大学), 武藤泰子 (環球技術学院)
- 
- B5) 文章産出過程モデルに着目した論理的な文章の読解指導方法の検討  
宮内佐和子 (東京都立拝島高等学校), 野村泰朗 (埼玉大学)
- B6) 国際交流学習実践の準備段階におけるコミュニケーションの分析  
奥林泰一郎・中澤明子・スペンス ゼオースキ・前迫孝憲 (大阪大学大学院)
- B7) 工学系学生に対する英文多読授業による英語能力改善の取り組み  
吉岡貴芳・西澤一・伊藤和晃・深田桃代・長岡美晴 (豊田工業高等専門学校)
- B8) 英文法学習における複数試行フィードバックが理解度に及ぼす効果  
塙陸一郎 (早稲田大学大学院)・向後千春 (早稲田大学)

- 
- C5) 原拠を基準とした情報形成過程の検証に関する試み  
福本徹 (国立教育政策研究所)
- C6) 初等中等教育の ICT 活用における学校・企業・研究者間のコラボレーションを円滑に進めるための  
観点の検討  
中川一史・堀田龍也 (メディア教育開発センター)
- C7) 大学における映像教育の普及のための事業づくりー北海道大学学内映画館 CLARK THEATER 2006  
の試みー  
江口彰 (北星学園大学/北海道大学大学院)
- C8) 議論の構造化のための Web インターフェイスの開発 ー議論の十字モデルによる議論構築のファ  
シリテーションー  
牧野由香里・潘寧 (関西大学)

- 
- D4) Java ベースの CSCL システムにおける Skype 通信機能の利用  
舟生日出男 (広島大学), 加藤浩 (メディア教育開発センター), 鈴木栄幸 (茨城大学)
- D5) 学校教育における Web ページの蓄積・オンデマンド利用システムを導入するための "Creative  
Commons" に関する研究  
藤澤大 (朝日大学大学院)
- D6) 学びの継続を支援する e-Learning を用いた高等教育  
黒田恭史 (佛教大学), 岡本尚子 (大阪大学大学院), 西之園晴夫 (佛教大学)
- D7) e-Learning におけるコンテンツ特徴抽出の方法に関する研究  
永田奈央美・岡本敏雄 (電気通信大学大学院)

### 14:55-16:10 午後の部第二部

- A9) 留学生による日本語キーボード入力変換の実態  
土屋順一・杉田幸代 (東京外国語大学)
- A10) Effect of online handwritten feedback in learning Japanese writing  
李凱・赤堀侃司 (東京工業大学)
- A11) 留学生と日本人学生のデジタルプレゼンテーションにおける意識と能力の比較分析  
立野貴之 (松蔭大学), 加藤尚吾 (早稲田大学), 加藤由樹 (東京福祉大学)
-

---

B9) 多言語のための対話型交渉シミュレータの開発と効果  
岩成英一・小島一秀・村山健二・高橋明 (大阪大学)

B10) 多目的利用を考慮した CALL 教室デザインと構築  
古川健一 (福岡教育大学)

---

C9) 談話構造を用いた同一話題の文書間における相違部分の抽出  
甲田博揮・中西祥八郎 (東海大学)

C10) キーワードを意識した文章産出がレポート評価に及ぼす影響  
椿本弥生 (東京工業大学大学院/教育測定研究所), 柳沢昌義 (東洋英和女学院大学),  
赤堀侃司 (東京工業大学)

---

D8) 学校サイトに適したハイブリッド型 CMS の開発  
豊福晋平 (国際大学), 柳瀬貴夫 (エドウェル), 小西克哉・堀田敦士 (エデュコム東京),  
林禎久 (世田谷区教育委員会)

D9) 不登校生徒を対象にした適応指導教室における CMS を活用した支援の提案  
加藤尚吾・後美帆・荒巻恵子 (早稲田大学), 加藤由樹 (東京福祉大学),  
西村昭治 (早稲田大学)

D10) 視線と対象: ロボットへの学習者の視線行動の特徴を中心に  
木下徹 (名古屋大学), 宮本節子 (兵庫県立大学), 大石晴美 (岐阜聖徳学園大学),  
今井裕之 (兵庫教育大学), 後藤明史 (名古屋大学)

---

●参加費用: 研究会報告集の年間予約購読代金を支払済みの本学会会員は無料で参加できます。その他の参加者は本学会会員を問わず 1,000 円 (当日受付にてお支払い下さい) となります。

●交通案内: 【名古屋駅から】地下鉄東山線藤が丘行きに乗車し, 本山駅で地下鉄名城線右回りに乗り換え, 名古屋大学駅下車。所要時間約 30 分 (乗換含)

【金山駅から】地下鉄名城線左回りに乗車し, 名古屋大学駅下車。所要時間約 25 分

【中部国際空港から】空港から名鉄特急に乗車し, 名古屋駅または金山駅で下車, その後地下鉄に乗り換え (上記参照)。所要時間約 70 分 (乗換含)

※詳細は <http://www.nagoya-u.ac.jp/index3s-4.html> をご覧下さい。

---

## 研究会の発表募集



テーマ 質的研究と教育学／一般

●日 時: 2008年 5月17日 (土)

●会 場: 岩手大学

●開催担当: 塚野弘明 (岩手大学)

●申込締切: 2008年 3月17日 (月)

●原稿提出: 2008年 4月10日 (木): 通常より早めです。

●募集内容:

近年の教育研究においては, フィールドワーク, アクシオンリサーチ, エスノグラフィー, グラウンデッドセオリー等, 質的研究法が盛んに行われるようになってきています。日本教育工学会でも日本質的心理学会と意見交換を行うなど, 質的研究への関心を高めてきており, 今後学会としてもこうした方法論についての議論が活発になるものと考えられます。そこで, 本研究会では, 教育研究における質的研究に取り組んでおられる方々の発表を募り, 質的研究の意義や課題について議論を深めたいと考えております。

また, 上記のテーマにはこだわらない教育学一般における発表も幅広く募集しております。

●申込方法:

研究会 Web ページよりお申し込み下さい。 <http://www.jset.gr.jp/study-group/>

●申込期限: 2008年 3月17日 (月)

締切後1週間以内に, 申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出期限: 2008年 4月10日 (木)

原稿の提出は PDF 形式で, 研究会 Web ページの「発表申込フォーム」より, 発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。尚, 期限を過ぎた場合はキャンセルしていただく場合があります。

## 今後の研究会の開催予定

開催日	募集テーマ（予定を含む）	開催場所
2008年 5月 17日	質的研究と教育学／一般	岩手大学
2008年 7月 5日	言語力を育む授業づくり／一般	金沢大学
2008年 9月 6日	学校図書館と情報教育／一般	玉川大学
2008年 12月 20日	教育システム・教材開発のための ICT 活用／一般	いわき明星大学
2009年 3月 7日	ICT の教育活用と授業設計／一般	椋山女学園大学
2009年 5月 16日	ICT を活用した FD／一般	徳島大学
2009年 7月 4日	教科教育学と教育学の交差点／一般	宮崎大学

- 発表申込み締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。
- 研究会に関するご意見・ご希望、研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会幹事までお寄せ下さい。  
E-mail: [study-group-core@jset.gr.jp](mailto:study-group-core@jset.gr.jp)

## 年間予約購読のお勧め



●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで3,500円です（当日売りは割高になります）。年間5冊、合計500ページ前後で、各研究会平均20件程度（平成18年度実績）の研究発表が掲載されます。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせ下さい。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル  
TEL/FAX : 03-5740-9505 E-mail: [office@jset.gr.jp](mailto:office@jset.gr.jp)

## 研究会の開催報告

- 日 時：2007年12月22日
- 発表件数：53件

- 会 場：熊本大学
- 参加者数：136名

2007年12月22日、熊本大学において「一般高等教育とeラーニング／一般」というテーマで研究会を開催いたしました。発表件数は53件で、eラーニングを活用した教育実践と評価、デジタルコンテンツの活用、カリキュラムや授業デザインの提案と評価、学習支援システムの開発と設計などの研究に加え、blog、国外のICT動向、メディアを用いたコミュニケーションなどの研究も数多く発表されました。高等教育に関する発表を中心とし、幼児教育から初等中等教育、さらに教員養成といったような様々な場面での教育が取り上げられ、全4教室で活発な議論が展開されました。eラーニングに関する研究は、学習対象者に適した支援システムの設計や実施を含む、質の向上を目指した内容が多くありました。年末のお忙しい時期であるにもかかわらず100名を越える方々にご参加頂き、大変うれしく思い、そして深く感謝申し上げます。



（担当：熊本大学 根本淳子）

# 産学協同セミナー開催案内

## ～教育工学における産学協同プロジェクトの在り方～

日時および会場

日時：2008年2月29日（金） 14:30～18:00

会場：内田洋行 東京ショールーム 2F

([http://www.uchida.co.jp/contents/tokyo\\_c3.html](http://www.uchida.co.jp/contents/tokyo_c3.html))

アクセス：東京メトロ 日比谷線「八丁堀駅」下車，「A4」出口より徒歩4分

東京メトロ 日比谷線・東西線「茅場町駅」下車，「1番」出口より徒歩5分

JR 京葉線「八丁堀駅」下車，「B1」出口より徒歩5分

今年の産学協同セミナーでは、教育工学における産学協同プロジェクトの様々な形態を紹介するとともに、その手法や可能性について議論します。産学協同プロジェクトに興味をもっている会員に、最初の一步を踏み出すためのヒントときっかけを与えるようなセミナーしたいと考えています。

そのために、まず、「産学協同プロジェクト入門（仮題）」と題した、小講演からスタートします。この講演は、産学協同プロジェクトの経験が豊富な研究者に登壇いただき、プロジェクトのスタートアップから維持、終結にいたるまでの流れを解説いただきます。

次に、3つの産学協同プロジェクト事例を、プロジェクトの当事者から紹介をしていただきます。プロジェクトの内容、これまでに直面した問題点とその解決方法、プロジェクトをうまく進行させるためのノウハウ等について、具体的なケースに基づいて報告していただきます。大学、企業双方のプロジェクトメンバーからの報告を計画しています。産学協同の在り方は多様で、様々な側面からの整理が可能ですが、今回は、求められる成果の時間的距離に基づいて事例を構成しました。つまり、商品開発を協同でおこなうような「今日のプロジェクト」から、産学が協同して次世代の事業の可能性を模索するような「あさってのプロジェクト」までをカバーするように、アレンジしました。

事例報告をいただいた後は、フロアを交えての全体討論をおこないます。その後、参加者同士がインフォーマルに情報交換するための交流会を実施します。

皆様のご参加をお待ちしております。参加は無料です。参加希望者は、学会ホームページより参加申込みをお願いいたします。

<当日のプログラム>

14:30～14:40：セミナーの趣旨説明と登壇者の紹介

14:40～15:20：小講演「産学協同プロジェクト入門（仮題）」（交渉中）

15:20～15:40：事例紹介1 太田泉（パイオニアソリューションズ）

15:40～16:00：事例紹介2 大久保昇（内田洋行）

16:00～16:40：事例紹介3 山内祐平（東京大学）、和気竜也（ベネッセ）

16:40～17:00：休憩

17:00～17:40：全体討論・総括

17:40～：交流会

問い合わせ先：茨城大学 鈴木栄幸 [hideyuki@mx.ibaraki.ac.jp](mailto:hideyuki@mx.ibaraki.ac.jp)

## 第24回通常総会とシンポジウム開催のお知らせ

第24回通常総会とシンポジウムを以下のように開催いたします。あらかじめご予定下さい。

### 記

1. 日時 2008年6月21日(土)  
10:00-12:00 シンポジウム1  
12:00-13:00 総会  
総会終了後 理事・評議員会  
14:00-16:00 シンポジウム2
2. 会場 東京工業大学 西9号館デジタル多目的ホール  
東京都目黒区大岡山2-12-1 (東急目黒線・大井町線 大岡山下車 徒歩1分)
3. 総会の議事
  - 1) 第1号議案 2007年度(2007.4.1-2008.3.31)事業報告および収支決算承認の件
  - 2) 第2号議案 2008年度(2008.4.1-2009.3.31)事業計画および収支予算案承認の件

なお、第24回全国大会は10月11日(土)～13日(月/休日)の3日間、上越教育大学で開催します。

# 日本教育工学会 第24回全国大会のお知らせ (第一報)

日本教育工学会第24回全国大会を、下記のように上越教育大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募下さい。

## 1. 開催期日・会場

期日：2008年10月11日(土)～13日(月)(3日間)

会場：上越教育大学 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

JR北陸本線・信越本線「直江津駅」よりバス20分、タクシーで約15分。JR信越本線「高田駅」よりバス15分、タクシーで約10分。直江津駅、高田駅より直行バスを運行する予定(片道200円)。

<http://www.juen.ac.jp/contents/access/guide/>

なお、※下記のWebページにて宿泊のご案内をしておりますので、早めに手続きをお願いいたします(<http://www.juen.ac.jp/gakkai/jset2008/>)。

## 2. 大会日程

第1日 10月11日(土)	第2日 10月12日(日)	第3日 10月13日(月)
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:30 受付	9:00～ 9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食 各種委員会	12:30～14:00 昼食	12:30～13:30 昼食
13:30～15:30 シンポジウム1	理事・評議員会	大会企画委員会
15:40～18:20 一般研究発表2	14:00～14:30 全体会	13:30～16:00 課題研究発表
	14:30～17:15 シンポジウム2	
	17:15～18:00 移動	
	18:00～20:00 懇親会	

\*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示が大会開催期間中終日催されます(予定)。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。

## 3. 各セッションについて

### (1) シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています。

#### シンポジウム1

##### シンポジウム1A ソーシャルネットワーキングの広がり と 教育利用

コーディネータ(五十音順, 以下同様): 金西計英(徳島大学),  
室田真男(東京工業大学), 森田裕介(早稲田大学)

##### シンポジウム1B 実践研究をどのようにデザインし, 論文にまとめるか

コーディネータ: 木原俊行(大阪教育大学),  
清水康敬(メディア教育開発センター)

#### シンポジウム2 教師教育の再考～専門職としての教師の資質能力の規準とその育成方法～

コーディネータ: 南部昌敏(上越教育大学), 東原義訓(信州大学)



## (2) 課題研究

以下のような6件のテーマの設定が予定されています。なお、課題研究は、発表希望者に事前にプロポーザルを提出していただき、大会企画委員会が発表の可否を決定いたします。各課題について十分に討論することを目的としていますので、発表者は、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加しなければなりません。この点、ご留意下さい。

- K-1 つながりメディアの教育利用ーモバイル、ユビキタス、ロボットアバター、SNS等ー  
コーディネータ：緒方広明（徳島大学）、中原 淳（東京大学）、高井尚一郎（内田洋行）
- K-2 教育工学分野における新しい技術を活用したシステム開発の展開  
コーディネータ：金西計英（徳島大学）、林 敏浩（香川大学）、  
室田真男（東京工業大学）
- K-3 ICTを活用した教育システムをどのように評価するのか  
コーディネータ：久保田賢一（関西大学）、向後千春（早稲田大学）、  
栗山 健（学習研究社）、平嶋 宗（広島大学）
- K-4 初等中等教育におけるICT活用のデザイン・実践・評価  
コーディネータ：高橋 純（富山大学）、森田裕介（早稲田大学）
- K-5 情報教育研究・実践の方向性ー教育課程の改訂を受けてー  
コーディネータ：小泉カキ（尚美学園大学）、中橋 雄（福山大学）、  
野澤敏夫（東京書籍）
- K-6 新しい時代に対応する学力、それを育む授業・カリキュラム  
コーディネータ：新地辰朗（宮崎大学）、田口真奈（メディア教育開発センター）、  
野中陽一（和歌山大学）

## (3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申し込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。

なお、今大会も、一般研究発表については、口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が申込時に選択できます。ポスター発表者は、発表セッションの定められた時間帯に、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育 I (情報活用能力の育成等) (3) 情報教育 II (教科指導等) (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔学習 (16) 認知モデルと知的学習支援システム (17) インターネットを利用した授業実践 (18) 教育メディア (19) e-Learning (システム) (20) e-Learning (運用・評価) (21) 協調学習と協調作業 (22) ワークショップ (23) その他

## (4) International Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。発表は一般研究発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

◆発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10分 研究発表各 15分 総合討論 1時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表 13分 質疑応答 5分

<ポスター発表>1セッション（在席責任時間は 60分）

[International Session] 発表 13分 質疑応答 5分

#### 4. 大会までのスケジュール

6月26日（木） 課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切

7月10日（木） 課題研究採否決定通知

7月24日（木） 課題研究・一般研究・International Sessionの参加費事前送金締切（郵便振替の場合）

7月31日（木） 課題研究発表原稿（2又は4ページ）提出及び参加費事前送金締切

一般研究発表・International Session 申込書・原稿（2ページ）提出及び参加費事前送金締切（クレジットカード支払いの場合）

なお、17:00が最終締切時刻となります。この時刻以降の原稿の提出は一切受け付けません。また、原稿の差し替えは、提出締切時刻までは可能ですが、Web上でご自身でお願いいたします（電子メールによる差し替えは認められません）。

8月28日（木） 発表者以外参加費等事前送金期限（郵便振替の場合、それ以降は送金しないで下さい）

9月04日（木） 発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード支払いの場合、それ以降は送金しないで下さい）

## 平成 19 年 論文投稿件数と採択率

2007 年 1 月～12 月の間に投稿された論文の採択率(12/31 現在)は以下の通りです。

	投稿	採録	査読中	返戻	著者取下げ	採択率
・一般論文誌	57	12	25	19	1	21～65%
・特集号	27	13	0	12	2	48%
・ショートレターSuppl. 号	100	55	0	42	3	55%
・ETR(英文誌)	18	13	1	3	1	72～78%

採択率の最小値：1 年間に投稿された論文が年末までに採択になった割合の論文数で計算

最大値：現在査読中の論文がすべて採択された場合の論文数で計算

月ごとの詳細は以下の通りです。

2007年	1月				2月				3月				4月			
	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR
投稿数	1	10	2	0	10	17	2	0	3	0	29	2	2	0	67	0
採録	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
返戻	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
取下げ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2007年	5月				6月				7月				8月			
	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR
投稿数	4	0	0	6	4	0	0	7	2	0	0	2	11	0	0	1
採録	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6	10	7	0	0	0	0
返戻	5	9	0	0	0	0	0	0	2	3	21	2	0	0	0	0
取下げ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0

2007年	9月				10月				11月				12月			
	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR	一 般	特 集	Suppl.	ETR
投稿数	7	0	0	0	5	0	0	0	7	0	0	0	1	0	0	0
採録	4	4	35	3	0	0	0	0	6	3	10	3	0	0	0	0
返戻	1	0	21	0	0	0	0	0	10	0	0	1	0	0	0	0
取下げ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

## 2008 年度会費納入のお願い

### ◆会員種別と年会費・受けるサービス

(入会金 1,000 円)

年会費は原則として前払いとなっております。今年から会費請求書を別便でお送りしますので、クレジットカード支払い、または同封します郵便振込用紙により 2008 年度(2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)の年会費をご送金くださるようお願いいたします。

会員種別	年会費	論文誌	増刊号	英文誌	JSET
正会員	9,000 円	1	1	1	1
准会員	5,500 円		1		1
学生会員	5,500 円	1	1	1	1
維持会員	50,000 円/口	3	3	3	3
名誉会員	無 料	1	1	1	1

年会費の年額は右記のとおりです。

本学会では、年会費を納入した会員のみに論文誌を発送しています。2007 年度会費未納の会員が会費を送金された場合には 3 月にまとめて発送します。

(注) 論文誌：和文/年 4 回発行

増刊号：ショートレター特集/年 1 回発行

英文誌：英文/年 1 回発行

JSET：ニューズレター/年 6 回発行

### ◆学生会員について

- 学生会員は正規の在学者で、研究生は該当しません。
- 学生会員の所属機関は、必ず大学名となります。所属機関が大学以外の場合には、正会員または准会員となります。
- 学生会員は、資格条件(大学名、学部名/研究科名、指導教官名、卒業見込/修了見込の年月)を必ず連絡して下さい。
- 学生会員として資格条件をご連絡いただかないで、年会費 5,500 円を納入された方は、とりあえず准会員に変更させていただいております。

## 2008 年度研究報告集の予約購読(年額 3,500 円)について

本学会では、研究会を 5 回または 6 回開催し、研究報告集を発行しております。この研究報告集は事前に代金 3,500 円を送金された会員に配布しています。事前に 3,500 円をご送金下さい。

研究会当日、会場で受領できます。不参加の場合は研究会終了後に郵送いたします。年度の途中でご送金いただいた場合は、次に開催される研究会終了後に、それ以前の報告集を郵送します。

代金後納の場合と非会員の場合は、以下に販売を委託しています。代金：5,000 円

- ・株式会社毎日学術フォーラム 販売業務課 澤井正幸
- ・〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 2 階
- ・TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555 E-mail. maf-sales@mycom.co.jp

## 第 23 回全国大会講演論文集の購入について

昨年 9 月に早稲田大学で開催された第 23 回全国大会の論文集に残部があります。購入をご希望の方は、学会事務局 (office-s@jset.gr.jp) にメールで在庫を確認の上、以下の金額をご送金下さい。ご入金を確認後お送りいたします。

郵便振込用紙の通信欄に「第 23 回全国大会講演論文集」とご明記下さい。特にご要望がない場合、請求書・領収証等を発行しておりませんので、必要な方はその旨ご記入下さい。

- ・第 23 回全国大会講演論文集 1 部 7,000 円 (論文集代 6,000 円+送料 1,000 円)
- ・口座番号：00180-2-539055 加入者名：日本教育工学会

代金後納の場合と非会員の場合は、上記の研究会報告集と同様に(株)毎日学術フォーラムに販売を委託しています。代金は 6,000 円+送料となります。

## 教育工学関連の最近の国際学会の報告と今後の開催予定

### ■国際学会 ICCE2007 in 広島 (<http://www.icce2007.info/>)

今回で 15 回目となる ICCE2007(International Conference on Computers in Education)が本会を共催学会として 2007 年 11 月 5 日～9 日の日程で広島において開催され、280 名を越える参加を集めて(うち、国内からは約 130 名)、盛況のうちに閉幕しました。7 日～9 日に行われた本会議では、NIME の清水康敬理事長を始めとする 4 件の招待講演があり、また、テクニカルセッションに対しては 23 ヶ国から 229 件にのぼる投稿があり、プログラム委員会による査読の結果、53 件がフルペーパー、43 件がショートペーパーとして採録され、これらを掲載した会議録は” Supporting Learning Flow through Integrative Technologies” というタイトルで IOS プレス出版より書籍として出版されています。本会議に先立って 5, 6 日に開催されたプレコンファレンスでは、9 件のワークショップなどが開催され、延べ 254 名の参加がありました。

次回第 16 回は台北(台湾)で開催予定です。本会からの国際的な研究成果の発信にも大きな期待が寄せられています。是非、ご投稿、ご参加を検討下さい。

<http://www.apsce.net/ICCE2008/>



文責 広島大学 平嶋 宗

### ■国際学会 CATE2007 in 北京 (<http://www.iasted.org/conferences/pastinfo-570.html>)

国際学会第 10 回 International Conference on Computers and Advanced Technology in Education(CATE2007)が北京師範大学で 10 月 8 日～10 日まで開催され、欧米を中心に 38 カ国から 352 本の論文投稿があり、査読を通過した 85 本のフルペーパーが 3 日間で、25 分ずつ発表されました。Key Note Speech は日本から電気通信大学大学院の岡本敏雄教授が” The Organizational Knowledge Management for e-Learning in University” という演題で講演されました。論文コンペでは 20 名の国際審査委員の審査の結果、ドイツ、フランス、米国、日本、ノルウェーの 5 本の論文が決勝審査に残り、最終的に Best Paper Award を滋賀大学の宮田 仁教授と鈴木真理子教授の共著論文「Development and Evaluation of a Lunar Observation Support System for Mobile Phones」が受賞しました。現在、滋賀大学で取り組んでいる現代 GP のモバイル技術、教育工学的アプローチを小・中学校での月観察に応用した研究で、システムのアーキテクチャーとモバイル技術の教育への応用の発想のユニークさが評価されました。宮田・鈴木論文は、6 月発行の International Journal of Advanced Technology for Learning(ATL)第 10 巻 4 号に Invited Paper として掲載されることとなりました。

次回の CATE2008 はギリシアのエーゲ海のクレタ島で 9 月 30 日～10 月 2 日まで開催される予定です。

<http://www.iasted.org/conferences/home-614.html>



## 第 12 期第 5 回理事会議事録

日 時：平成 19 年 11 月 24 日（土）14:40～16:30

場 所：キャンパスイノベーションセンター 812 号室

出 席：赤堀侃司会長，野嶋栄一郎副会長，矢野米雄副会長，赤倉貴子，池田 満，植野真臣，大谷 尚，木原俊行，黒上晴夫，澤本和子，三宮真智子，清水康敬，中山 実，東原義訓，堀田龍也，宮田 仁，室田真男，山内祐平

1. 第 12 期第 4 回理事会議事録を資料のとおり承認した。

2. 会員の移動について

(1)新入会員： 31 名(正会員:14 名，学生会員:14 名，准会員:3 名)

(2)退会会員： 7 名(正会員:4 名，准会員:3 名)

(3)会員種別変更： 3 名(正会員へ 1 名，准会員へ 2 名)

合計 2548 名(正会員:1965 名，准会員:267 名，学生会員:287 名，維持会員:27 名，名誉会員:2 名)

3. 各種委員会報告について

(1)編集委員会

清水編集長から，資料に基づいて和文誌，特集号，ショートレター増刊号，英文誌の編集進捗状況が報告された。編集委員 3 名の追加が提案され，承認された。

(2)研究会委員会

堀田委員長から，来年度(2009 年 7 月まで)の研究会日程の検討状況が報告された。

(3)企画委員会

企画委員会議事録を確認した。

(4)大会企画委員会

木原委員長から資料に基づいた大会企画委員会の提案を承認した。第 24 回大会大会企画委員について担当理事以外の理事は退任する。大会テーマの設定は理事会としては積極的に行わない。国際セッションを充実させる検討を行う。大会運営のために，学会 Web システムをさらに改訂する。課題研究について，テーマ数を減らす。

(5)顕彰委員会

三宮委員長から資料に基づいて，論文賞，研究奨励賞の選考手続きの改訂について提案があった。

(6)選挙管理委員会

澤本委員長から，選挙管理委員会規程の提案があり，これを承認した。また，役員選出に関わる覚書の提案があり，定款改訂も考慮して継続的に検討することにした。

(7)国際交流委員会

野嶋副会長から韓国教育工学会(KSET)との交流について報告があった。

(8)広報委員会

資料に基づいて JSET ニュースレター155 号台割案が示され，ページ数の構成について検討した。

4. 電子図書館の機関リポジトリについて

広島大学からの申請について承認したことが報告された。

5. 大会論文・研究会資料の著作権の取り扱いについて

大谷理事から，取り扱いについて意見があった。さらに継続的に検討することにした。

6. その他

(1)日本独文学会からのアンケート依頼について回答

(2)外部資金による研究プロジェクトについて，会長から呼びかけがあった。

(3)本学会への広報を確認した。

(4)今後の理事会

第 12 期第 6 回理事会 2008 年 1 月 26 日（土）14：40～16：20

以上

## 第 12 期第 6 回理事会議事録

日 時：平成 20 年 1 月 26 日（土）14:40～16:30

場 所：キャンパスイノベーションセンター 2 階 多目的室 4 201 号室

出 席：赤堀侃司会長，永野和男副会長，矢野米雄副会長，植野真臣，大久保昇，小柳和喜雄，木原俊行，向後千春，澤本和子，清水康敬，鈴木克明，中山 実，東原義訓，堀田龍也，美馬のゆり，山内祐平，宮田 仁，室田真男

1. 第 12 期第 5 回理事会議事録を資料のとおり承認した。

2. 会員の移動について

(1)新入会員： 18 名(正会員:13 名，学生会員:4 名，准会員:1 名)

(2)退会会員： 4 名(正会員:3 名，准会員:1 名)

(3)会員種別変更： 2 名(正会員へ 1 名，准会員へ 1 名)

3. 各種委員会報告について

(1)編集委員会

清水編集長から，資料に基づいて論文誌の編集進捗状況が報告された。論文誌に総説，解説を掲載する方針について検討したことが報告された。投稿規程の著作権に関する「翻訳」に関する事項の記述について訂正することにした。また，学会論文誌の Web 改訂を検討することにした。

(2)研究会委員会

堀田委員長から資料に基づいて，研究会開催報告，来年度の開催計画，委員会組織および分担案が提案され，これを承認した。

(3)企画委員会

美馬委員長から，冬の合宿研究会，産学セミナー，6 月シンポジウムテーマの委員会案について報告があった。6 月シンポジウムテーマについて話し合った。

(4)大会企画委員会

木原委員長から，第 24 回大会企画委員会での決定事項が報告された。課題研究を 6 課題とした。一般研究の発表時間に交代時間 2 分を含めることにした。また，ポスターセッションでポスター掲示時間の取り扱い，国際セッションでの講師招聘の取り扱い，について意見を交換した。

(5)選挙管理委員会

澤本委員長から今後の方針について検討していることが報告された。

(6)国際交流委員会

赤堀会長から，韓国，中国などとの交流の方法を検討していることが報告された。

(7)事務・総括

学会で定めた重点項目のレビューについて，2009 年 6 月のシンポジウム等で行う予定である。選挙については，選挙管理委員会での検討だけでなく，総務担当でも WG を構成して検討することにした。学会としての外部資金の獲得については，今年度は見送ることにした。

(8)広報委員会

宮田副委員長から，JSET ニュースレター 156 号台割案の再確認があった。

4. その他

(1)協賛名義使用を承諾した。

・平成 20 年度工学・工業教育研究講演会(社団法人日本工学教育協会)

(2)(独)科学技術振興機構の研究者人材データベース(JREC-IN)について Web 掲載の依頼があった。

(3)本学会への広報を確認した。

(4)今後の理事会

第 12 期第 7 回理事会 2008 年 3 月 22 日(土)14:40～16:20

以上

— 新入会員 (2007年11月20日～2008年1月21日) —

■正会員 13名

瀬戸口 誠 (梅花女子大学)  
大矢 芳彦 (名古屋外国語大学)  
田原 潤 (広島大学附属東雲小学校)  
中島 幸子 (帝塚山大学)  
吉井 直子 (奈良県立平城高等学校)  
桑原 悟 (新潟国際情報大学)  
桐山 聰 (鳥取大学)  
中西 寛子 (成蹊大学)

三原 龍志

(国際交流基金日本語国際センター)  
大塚 高慶 (株式会社ユーキャン)  
小倉 猛昭 (大阪市立堀川小学校)  
野村 竜也 (龍谷大学)  
前田 稔 (東京学芸大学)

■学生会員 4名

江口 彰 (北海道大学大学院)  
藤原 亮平 (鳴門教育大学大学院)  
羽田 邦弘 (熊本大学大学院)  
青木 悠祐 (東京農工大学大学院)

■准会員 1名

米谷 淳子  
(フィニッシングスクール・インフィニ)

学会日誌

2008年

- 2月22日(金)～23日(土) 冬の合宿研究会「授業評価・授業改善におけるテキストマイニングの有効性を探る！」(兵庫教育大学)  
2月29日(金) 産学協同セミナー「教育学における産学協同プロジェクトの在り方」  
(内田洋行 東京ショールーム)  
3月01日(土) 研究会「日本語教育と教育学」(名古屋大学)  
3月22日(土) 理事会 (CIC)  
5月17日(土) 研究会「質的研究と教育学」(岩手大学)  
6月21日(土) 第24回通常総会, シンポジウム, 理事・評議員会 (東京工業大学)  
7月05日(土) 研究会「言語力を育む授業づくり」(金沢大学)  
9月06日(土) 研究会「学校図書館と情報教育」(玉川大学)  
10月11日(土)～13日(月) 第24回全国大会 (上越教育大学)  
12月20日(土) 研究会「教育システム・教材開発のためのICT活用」(いわき明星大学)

2009年

- 3月07日(土) 研究会「ICTの教育活用と授業設計」(相山女学園大学)  
5月16日(土) 研究会「ICTを活用したFD」(徳島大学)  
7月04日(土) 研究会「教科教育学と教育学の交差点」(宮崎大学)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局 (jset-branch@nime.ac.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ・・・大会企画委員会 (taikai2007@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ・・・学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長:清水康敬, 広報委員長:赤倉貴子, 広報副委員長:宮田 仁,  
委員:矢野米雄, 伊藤剛和, 香山瑞恵, 神月紀輔, 三輪吉和 E-mail: kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No.156

2008年02月20日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

http://www.jset.gr.jp/

郵便振替 00180-2-539055